

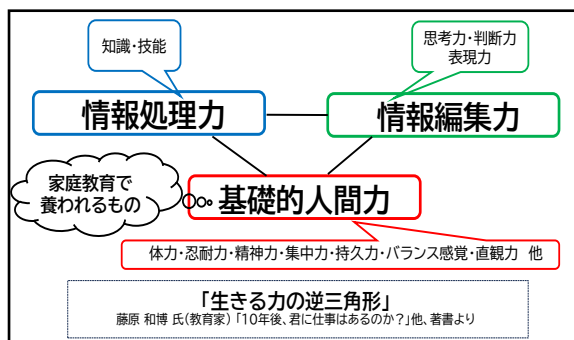


なかさと



発行：中里中学校区小中一貫教育事務局
(中里中学校内 TEL:025-763-3128)

「これからの時代に必要な3つの力」 中里中学校 校長 上村 みほ



一人一人の子どもに身に付けさせたい「生きる力」として、「知・徳・体」が広く知られています。田沢小学校・中里中学校共に、学校グラウンドデザインにこの力を位置付け、教育活動を進めています。

最近、教育改革実践家である藤原和博氏の著書や講演に触れる機会がありました。左図は、藤原氏が提唱している「これからの時代に必要な3つの力（生きる力の逆三角形）」の図です。

左上「**情報処理力**」は「知識・技能」。教えられ、覚えるべきもの。これを藤原氏は「**ジグソーパズル型学力**」と唱えます。一つのピースにはめ込むことができるピースは一つだけ。“正解が求められるもの”です。右上「**情報編集力**」は「思考力・判断力・表現力」。昨今学校教育で重要視し、高めようとしている力です。身に付けた知識・技能そして経験等を組み合わせ、人生を切り拓いていく力だと藤原氏は言い、「**レゴブロック型学力**」だと唱えます。レゴブロックは、組み合わせ方によって建物にも動物にも宇宙船にもなる。想像力次第で様々なものを創り上げる力です。

ここで注目したいのは、上記2つの力の下支えになっているのが「**基礎的人間力**」であること。これは家庭教育で養われるものであると、藤原氏は述べています。

一人一人の子どもの「**生きる力**」は、家庭と学校がしっかりと連携してこそ育まれるものだと考えます。田沢小学校・中里中学校は、一貫して中里の宝である子どもたちの教育に尽力します。ご家庭そして地域の皆様と、「**チーム中里**」として頑張っていけたらと思います。今後ともどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

異校種体験（チーム学力）

田沢小学校 山本 聖奈

異校種体験で中里中に出向き、中学生を対象に授業を行いました。1年生の社会科の授業では、熱帯地域の気候について行い、熱帯の伝統的な建物に焦点を当て、日本の住居と比較しながら考察しました。生徒らは学んだことを活用したり、教科書から重要な情報を読み取ったりする力があり、積極的に話し合いに参加していました。この経験から、小学校段階から「**自分の考えを積極的に伝えることができる子どもたちを育てたい**」と感じました。学習の知識を深めることだけに重点を置くのではなく、**安心して自分の考えを伝えることができる学級づくり**にも力を入れていきたいです。

中学校での授業を通して、小学生が中学生になるまでに身に付けるべき力が明確になりました。今後、小学校段階から中学校での学びを意識した指導を行っていきたいと考えています。

中学校体験（チーム活力）

田沢小学校 藤原すみれ

10月8日の中学校体験では、6年生の子どもたちが、中学2年生による学校紹介を聞いたり、部活動体験に参加したりしました。

学校紹介では、クイズを交えるなどの分かりやすい説明のおかげで、6年生は中学校生活を具体的にイメージすることができました。部活動体験では、どの部活動においても、明るく一生懸命に活動する中学生の姿から6年生は刺激を受け、「中学校に行くことが楽しみになった」という声が続出しました。さらに、「中学生のみなさんが優しく教えてくれてうれしかった」という感想も多く、実際に笑顔で体験に参加する子どもたちがとても多かったです。

中学校生活への期待や希望を膨らませることができた中学校体験でした。6年生の子どもたちは、進学に向けて、卒業までの一日一日を大切に過ごしているところです。



いじめ見逃しゼロスクール集会

中里中学校 小河 一貴

今年度の「いじめ見逃しゼロスクール集会」は、ねらいを①「いじめの問題を自分の問題としてとらえ、『いじめ見逃しゼロ』から『いじめを生まない中学校区の風土作り』を大切にする」、②「小学校や中学校で活用できる術を考え、人権侵害をしない児童生徒を育てる」に変更し、小中学校でそれぞれが新しい取組に挑戦しました。

小学生はいじめに関する学びの気づきを劇などで演じ、中学生はいじめ見逃しゼロ強調週間で各委員会が実施した内容を発表しました。

後半は、小中学生をランダムに班編成し、中学生が作成したいじめに関する動画を視聴しました。各班で「被害者の思い」と「このいじめ事案を食い止めるためには『被害者』、『加害者』、『傍観者』それぞれの立場でどう行動したらよいか」を各班で議論し、発表しました。

中里中学校区は一小一中です。小学校からほとんどメンバーが変わらないことから、「いじめ」の問題を自分の問題として捉えて考えることを大切にしたいと思います。



睡眠チェック2週間チャレンジ（チーム学力）

田沢小学校 鴨田 未来

2回目の睡眠チェック2週間チャレンジを行う前に、小学校では、保健委員会の児童から全校児童へ1回目の結果や課題・改善点等を伝え、2回目に取り組みました。中学校では、より具体的な生活習慣に関するアンケートを実施・分析して、課題や困り感を表面化し、生徒個々に応じた具体的な指導を行いました。

しかし、なかなか規則正しい生活習慣が定着していない児童生徒もいるため、創意工夫をしながら、本人のやる気が出るようなアプローチをしていく必要があると感じました。そのために、睡眠チェックカードを一部変更したり、児童生徒自身から発信できるような活動を増やしたりして、より効果のある取組にしたいと考えています。

